

令和4年度
地域のチカラ協働事業及び
市民協働モデル事業
取組報告書

鹿沼市 市民部 地域活動支援課

目次

はじめに	1
掲載取組一覧	2
1 地域のチカラ協働事業	
(1)西大芦地区自治会協議会	4
(2)加蘇地区コミュニティ推進協議会	5
(3)南摩地区コミュニティ推進協議会	6
(4)南押原地区コミュニティ推進協議会	7
(5)東大芦地区コミュニティ推進協議会	8
(6)花と芸術の街・あわの実行委員会	9
2 市民協働モデル事業	
(1)エコネットかぬま	10
(2)かぬまお茶の間うたごえ喫茶 DVD 作成委員会	11
(3)かぬま便	12
(4)千渡地区高架橋下整備委員会	13
(5)朗読劇 cry!cry!!cry!!!犬達の遺言 公演実行委員会	14

はじめに

市では、第8次鹿沼市総合計画において「協働・共創」をまちづくりの大きな方向性として定めました。自治会等の地縁団体を対象とした「地域のチカラ協働事業」や市民活動団体を対象とした「市民協働モデル事業」といった補助事業により、協働・共創のまちづくりの主体となる皆さんを支援しております。

今年度も両補助事業の活用により、様々な取組が行われましたので、皆さんのまちづくり活動の参考となる事例集になればとの思いから、この報告書をまとめました。

地域のチカラ協働事業

目的

助け合う地域、住み続けたい地域、訪れたい地域の共創のため、住民の皆さんが主体的に取り組む、持続可能で自立化を目指す公益上必要な事業を、人的、財政的に支援するものです。

補助対象者

地区自治会協議会または、地区コミュニティ推進協議会など

補助対象事業

運営組織基盤の強化、持続可能な収支計画、市民活動団体や企業等との協働推進の3つの視点が盛り込まれた防犯、防災、福祉、コミュニティビジネスなど

市民協働モデル事業

目的

市民と市が協働で地域の課題解決にあたり、市民自治と協働によるまちづくりの推進を図ることを目的とします。

補助対象者

市民活動団体等（5名以上の構成員とする）

補助対象事業

鹿沼市のまちづくり・地域づくりの推進を図る公益的な事業

掲載取組一覧

Ⅰ 地域のチカラ協働事業の取組

(1) 西大芦地区自治会協議会

- ・事業名: 宅配弁当事業

概要: 自前で食事の確保が難しい住民への弁当宅配及び見守り活動の実施

- ・事業名: 農産物市事業

概要: 地域住民に買い物の場を提供し、併せて地区外からの誘客を図る。

(2) 加蘇地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名: 地域防災力の強化

概要: 防災マップの作成と各戸配布及び、防災研修会・講演会の開催

(3) 南摩地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名: 地域連携「なんまん」作戦

概要: 「なんまん腕章」の作成、装着による、地域の活動への参加意欲や郷土愛の醸成

(4) 南押原地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名: 南押原地区友遊館事業

概要: 幼児・子ども・高齢者サロン・健康麻雀教室・ゆうゆう食堂・ギャラリー等12事業

(5) 東大芦地区コミュニティ推進協議会

- ・事業名: 地域交流を生かした健康のまちづくり

概要: 防風カーテンを芦の郷公園に設置することで地域交流拠点を充実

- ・事業名: 災害に強い地域づくり

概要: 住民に防災意識を定着させるため、研修や講座を開催するほか、イベント性をもたせた防災訓練等を実施

(6) 花と芸術の街・あわの実行委員会

・事業名:AWANO 夢咲く ART FESTIVAL

概要:芸術イベント「AWANO 夢咲く ART FESTIVAL」の開催

2 市民協働モデル事業の取組

(1) エコネットかぬま

・事業名:鹿沼市における市民の地球温暖化防止活動

概要:フードロス対策やゴミ分別、エコ料理など地球温暖化対策の取組を広める活動

(2) かぬまお茶の間うたごえ喫茶 DVD 作成委員会

・事業名:鹿沼ケーブルテレビ放送形式うたごえ喫茶DVD作成・鹿沼市図書館蔵書化、鹿沼市高齢福祉課様備え置き・貸し出し

概要:かぬま・お茶の間うたごえ喫茶 20 回分のDVD作成、図書館蔵書化

(3) かぬま便

・事業名:鹿沼を巡る絵本プロジェクト

概要:若者が鹿沼市の魅力に気付くための魅力を絵本によって発信

(4) 千渡地区高架橋下整備委員会

・事業名:千渡地区高架橋下広場づくりと活用

概要:高架橋下に広場を整備し、ラジオ体操やサマーナイトシアターなどの実施

(5) 朗読劇 cry!cry!!cry!!!犬達の遺言 公演実行委員会

・事業名:朗読劇「cry!cry!!cry!!!犬達の遺言」

概要:朗読劇の公演 6 回(うち小中学校での開催 2 回)、DVD 化及び貸出

**令和4年度
地域のちが協働事業取組レポート**

事業名 1-(1)

- ・宅配弁当事業
- ・農産物市事業

地区名・団体名

西大芦地区
西大芦地区自治会協議会

代表者肩書・氏名

会長 上澤 利行

●事業の目的、目指す将来像など

基幹産業の農林業の衰退に伴い地区人口が減少しており、高齢化が他地区と比較して加速度的に進行している。また地区内唯一の学校である西大芦小学校が閉校し、地域コミュニティの活力が益々低下していくのではないかと懸念されている。

このようなことから、定住促進、交流人口の増加により地域の担い手が確保され、コミュニティ活動の維持、活性化が図られること、地域住民、特に高齢者などが生活必需品や食事の確保に困らないことを事業の目的、及び目指す将来像として活動している。

●今年度の事業の取組実績

○宅配弁当事業

- ・毎週木曜日に自前で食事の確保が難しい住民(特に高齢者世帯)に対し、廃校となった旧西大芦小学校の給食調理室を活用して弁当を作り1軒、1軒手渡して配達した。
- ・弁当配達時には住民(特に高齢世帯・独居老人)への見守り活動も行った。利用者は高齢者が多く、弁当の配達時に配達スタッフと会話することを楽しみに待っている。配達スタッフはその会話を通して利用者の近況などを知り、見守り活動に役立っている。

○農産物市事業

- ・高齢で地区外まで自力で買い物に行くことができない地域住民(特に高齢者)に買い物の場を提供すること、併せて地区外から西大芦地域への誘客を図るため、毎月第3日曜日に農産物市を開催した。
- ・地区内外に農産物市をPRして誘客を図り、農産物市(地区外の方は西大芦地区)に足を運びきっかけをつくる。さらには地域にお金を落としてもらうため、毎月直売所会議を開いて農産物市がより充実するための企画立案や仕入れ(品目や数量)の調整などを行った。

●今後に向けての展望、意気込み

○宅配弁当事業

- ・安定して事業を継続していくため、収益確保の取り組みを強化していく。
- ・地区内はもとより、隣接・近接する地域の弁当受注を増やしていくため、隣接・近接地域との連携について検討していく。
- ・地区内イベントはもちろん、他地区でのイベントの際の弁当についても積極的に受注していきたい。そのため、高品質で利用者の満足が高まるような弁当作りを目指して、日々精進していきたい。

○農産物市事業

- ・全国の優良事例を調査し参考とするほか、地区の特性や強みを前面に出した農産物市を展開する。
- ・スタッフの高齢化が進み担い手確保の必要性があることから、交流人口を増やし農産物市のファンや出店希望者が農産物市の手伝いをしやすい環境を醸成していく。最終的には、主体的に運営に関わる人材を発掘していく。



調理の様子とお弁当



農産物と販売の様子

令和4年度
地域の力を協働事業取組レポート

事業名 1-(2)

・地域防災力の強化

地区名・団体名

加蘇地区

加蘇地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 小林 俊明

●事業の目的、目指す将来像など

若者世代の定住化により地域の担い手が確保され、コミュニティの活動が活性化されている姿、また、地域活動により防災意識が向上し、高齢者などの把握が出来ており、地域全体で命と財産を守る取り組みを目指す。

また、加蘇地区ふるさとづくり協議会を中心とし、都市交流により地区内への移住の促進や関係人口が増加することで、地域の担い手が確保されている姿を目指す。

●今年度の事業の取組実績

令和2年度から進めていた危険箇所の把握、現場確認内容を整理し、加蘇地区防災マップ作成、12月中に全戸配布を実施。

地域住民や学校、消防団により避難所である加園小と旧久我小の清掃や鍵、連絡体制、防災物品等の確認を実施、防災意識の向上を図った。

高齢者ほっとサロンで、警戒レベルに合わせた早期避難の研修や災害時に役立つ防災料理を実際に調理、防災を身近に感じる内容を高齢者向けに実施。

また、自治会長・消防団・地区内防災士・民生委員・小中学校PTAなど各団体の代表メンバーにより防災研修を実施。防災マップで、自治会ごとに地区内の危険箇所の確認・一人暮らしの高齢者などの避難時の支援体制の確認・水没箇所を想定した避難経路の確認など地図上の訓練を実施、連絡体制や情報共有の強化を図った。

●今後に向けての展望、意気込み

防災マップを活用しながら、研修会や避難訓練を開催して、地域防災力の底上げ、防災意識の向上を継続的に図り、毎年継続して実施していきたいと考えている。

また、研修会や避難訓練の実施の際には、幅広い方の参加を検討していく。特に、加蘇地区コミュニティ推進協議会メンバーには、関連団体である加蘇地区ふるさとづくり協議会、加蘇地区青少年育成市民会議、加蘇地区福祉活動推進協議会、加蘇地区学校運営協議会、消防団、加園小、加蘇中、PTA、育成会などの代表が参加しており、また、消防団や民生委員、地区内防災士など地域ぐるみで連携を密にして情報共有を図りながら継続実施していきたいと考えている。



加蘇地区防災マップ



加蘇地区防災研修

**令和4年度
地域のつながり協働事業取組レポート**

事業名 1-(3)

・地域連携「なんまん」作戦

地区名・団体名

南摩地区

南摩地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

代表 赤坂 日出男

●事業の目的、目指す将来像など

地域づくりの前提となる地域コミュニティに対する価値観の形成を進める。そのために地域コミュニティ内の単位団体となる地域内の既存団体組織を「なんまん印の活動」を通して連携する。この連携した取り組みを基本活動とし、南摩地域住民にとって最適となる協働体制を議論しながら構築していく。

地元で親しまれているキャラクターである「なんまん」を前面に押し出し、地域活動の際に腕章として装着しアピールすることで、幅広い世代に地域活動に対する興味や理解を促す。

●今年度の事業の取組実績

「なんまん腕章」を作成し、装着することにより、地域コミュニティ内の単位団体となる地域内の既存団体組織を「なんまん印の活動」として広く連携しながら内外にアピールした。それぞれの単位活動が地域(のための)活動として目にする人に興味を持ってもらうこと、さらには活動を理解し将来的に参加してもらう一助になることが大きな目標となっている。

夏に作成し、そこから秋にかけて地域活動である草刈りの際に装着してもらいアピールを行ってきた。

12月に開催された「南摩フェスティバル」において、係員全員、及び運営に参加した中学生にも腕章を装着してもらうことで、全員の気運の醸成を図った。事業を円滑に遂行するために同じ考えや目標のもと、一体感を持って活動できたことがイベントの成功に繋がった。

●今後に向けての展望、意気込み

「南摩フェスティバル」の開催を受けて中学生も含めた係員全員が「なんまん腕章」を装着することにより、一体感や気運の盛り上がりを感じることができ、コロナ禍にもかかわらず「フェスティバル」は想定以上の来場者を記録し成功をおさめた。

当初は腕章に団体名を入れることや、各個人に配布することも検討したが、「なんまん」のみの表記、イベント都度貸与で対応することにしたため、想定していた数量より少量で済むと判断した。

また、南摩地区最大のイベントである「南摩フェスティバル」において腕章の配布数が現有個数で賅えたため、今後、これ以上の数量を必要とするイベントが無いと判断し、次年度以降の申請を見送ることとした。

現在所有分は今後もイベントがあるたびに装着し、地域活動の意義や大切さを広くアピールしていく。



草刈り事業



腕章



南摩フェスティバル

令和4年度
地域のチカラ協働事業取組レポート

事業名 1-(4)

・南押原地区友遊館事業

地区名・団体名

南押原地区

南押原地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 鈴木 節也

●事業の目的、目指す将来像など

地域の人口が減少すると、住民同士の人的交流も減少し、社会的に弱い立場にある高齢者や子ども達の生活や教育が不安定になり、日常生活にも不安を感じてしまうとの意見を解決するため、住民が集い、学び、支え合う、地域住民の居場所作りを目的に実施している。

将来的には、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、「向こう三軒両隣」、おたがい様の精神を事業を通して地域全体に広げ、温かく住みやすい地域になることを目指している。

●今年度の事業の取組実績

「地域の夢実現事業」の5年間は15の事業を実施したが、各事業を見直し「地域のチカラ協働事業」においては、12の事業に絞り込み実施した。12のうち8事業が福祉的的事业、4事業が8事業を支える収益事業として展開している。

令和4年度はコロナ禍でもあり、8・9月は休館としたが、他の月は目標達成された事業となった。10・12月は通常の活動の他に、「おたがい様市」と「クリスマス会」を実施。「おたがい様市」はバザーやサークル等からの作品の販売を行い、目的であった居場所作りや多世代間交流が図れた。「クリスマス会」では、学童保育との連携を図り、大抽選会を実施、子ども同士の交流ばかりでなくスタッフ間の意思疎通も図れた。実績として、直近2月の利用者数は、全事業を合わせて、利用者196人、スタッフ70人であり活気のあるものとなった。

●今後に向けての展望、意気込み

令和5年度は、12の事業を利用者が来てくれる「待つ」の姿勢から、広報活動等を強化し「打って出る」姿勢で運営していくことを考えている。本年度実施した「おたがい様市」は隔年毎の実施とし、来年度は博物館事業の幅を広げた「史跡巡りバスツアー」を実施する。実施するに当たっては、持続可能な事業でなくてはならない。そのために受益者負担も考え、また、企業からの協賛を得ることも大切なこととなってくる。主催者側も、それに見合う事業内容の充実を図っていくことも忘れてはならない。更に、スタッフは固定化しやすい。仲間意識が生まれるからだ、安定感のある運営は可能であるが、「持続可能」の面からは疑問が残る。来年度は、発展・充実は期待薄となる。全体をマネジメントできる人材育成は不可欠な喫緊の課題だ、課題解決の方法を見出すことに力を注ぎたい。



おたがい様市 バザー



おたがい様市 子ども食堂カレー販売

令和4年度 地域のちから協働事業取組レポート

事業名 1-(5)

- ・地域交流を生かした健康のまちづくり
- ・災害に強い地域づくり

地区名・団体名

東大芦
東大芦地区コミュニティ推進協議会

代表者肩書・氏名

会長 寄川 良一

●事業の目的、目指す将来像など

地域で高齢化が進み、地域内で「支えられる人」の割合が増え、「支える人」の割合が低下している。また、最近は大規模な災害が起きており、令和元年東日本台風での被害を超えるもっと大きな災害が起こる可能性がある。

そこで、高齢者が元気で居続けることで「支えられる人」が増えず、若い世代が地域にかかわってくれることで「支える人」が増え、お互いが強いきずなでつながり、誰一人取り残されない強い地域が住民主導で作られている将来像を目指す。

●今年度の事業の取組実績

「地域交流を生かした健康のまちづくり」では、天候に左右されない環境で安定した利用が可能な地域交流の拠点となるよう、芦の郷公園多目的屋内施設に防風カーテンを設置した。当初の完成予定から大幅に遅れて12月の設置となったことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた事業がほぼ中止となったことから、地域交流の促進を図ることができなかったことが今後の課題である。

「災害に強い地域づくり」では、5月に自主防災についての講演会を開催、7月には自主防災協議会と地区自主防災組織におけるそれぞれの役割について研修を実施した。さらに、11月には消火ゲームや担架搬送体験、起震車体験等の防災訓練を実施した。これらの事業を通して、住民の防災意識を高め、かつ、住民が継続的に参加できる環境の整備に努めた。

●今後に向けての展望、意気込み

「地域交流を生かした健康のまちづくり」では、コロナ禍においても天候に左右されずかつ開放的である芦の郷公園の特性を活かし、密を避けた健康づくりイベント等を促進し、地域内の健康維持を図っていききたい。そしてイベント等を通じて世代間交流を促進し地域の絆を深め、その絆が強固なものへと変化し、若い世代の地域外への流出が抑制され、地域の若い担い手が増え、運営基盤が整っている将来像へ近づけていききたい。

「災害に強い地域づくり」では、より多くの地域住民に「自主防災」の意識付けを行うこと、さらに継続的に参加できる環境を整備するため、今年度と同様の事業を繰り返し実施して、東大芦地区自主防災協議会の定着とともに住民の防災意識の定着も図っていききたい。そして防災リーダーを育成し、大きな災害が起きても誰一人取り残されない強い地域が住民主導で作られている将来像を目指していききたい。



芦の郷公園防風カーテン



防災訓練

**令和4年度
地域のなか協働事業取組レポート**

事業名 1-(6)

・AWANO夢咲く
ARTFESTIVALプロジェクト

地区名・団体名

栗野4地区合同
花と芸術の街・あわの実行委員会

代表者肩書・氏名

委員長 小杉 国夫

●事業の目的、目指す将来像など

栗野地域において、素敵な芸術が存在する豊かな文化を感じられる地域づくりを目指す。栗野地域の財産である美しい里山の風景や文化的歴史（「双体道祖神」や「旧栗野中学校」など文化財や伝統あるお寺など）を活かし、地域住民が心豊かに安心した生活を営み「住んでよかった、住み続けたい」と思えるような地域をつくっていく。

さらに、学校や地域の文化、経済団体との連携を深め、子どもの豊かな感性の育成、地域活性化を視野に入れた活動、また、空き家を活用した人々が集える場所づくりや芸術作家の移住を推進するためのシェアハウスづくりを計画し実施を目指す。

●今年度の事業の取組実績

(1)AWANO夢咲くART FESTIVAL
の開催

11月6日～19日に、栗野地域5会場（栗野中、旧栗野中、医王寺、常楽寺、空き蔵を利用したギャラリー）で絵画、彫刻等の展覧会を開催し、のべ2,589人の来場があった。

会期中には、音楽会、舞踊などのアートステージ、子どもたちを対象としたワークショップ、栗野中学校での鑑賞授業を実施した。

また、地域店舗とお菓子の商品開発を行い展示会場で販売した。その他、これまで関わった作家の小作品を空き家の蔵のギャラリーで展示販売もした。

(2)道祖神プロジェクトの実施

実行委員会で地域に残る双体道祖神の視察研修を行ったほか、粕尾小学校と連携し、子どもたちと地域の方を対象に学習会を実施した。また、アートフェスティバルでは「私たちの道祖神をつくろう」をテーマとしたワークショップを開催し作品を制作・展示した。

●今後に向けての展望、意気込み

(1)AWANO夢咲くART FESTIVAL
を“きっかけ”とした地域の活性化

アートフェスティバルでは、新たな展示場の発掘や地域作家の展示を行い、アートが地域の方に身近なものになり、心豊かな生活を送るきっかけとなるような存在にしたい。

また、地域の若者にフェスティバルに参加してもらい、地域活性化に積極的に取り組む人材を育てていきたい。

(2)空き家を活用した芸術活動

地域の空き家を活用し、芸術家たちが活動できる拠点を提供する。芸術家が地域の方と交流しながら活動することで地域の賑わいをつくっていく。

(3)道祖神プロジェクトの継続

双体道祖神を中心とした地域文化財の学習を続けながら、新しい私たちの道祖神の制作を進める。地域の方を巻き込みながら、将来的には、地域にアートとしての道祖神を設置し、新しい道祖神街道を提案していきたい。



旧栗野中学校での展示の様子



医王寺でのアートステージの様子

**令和4年度
市民協働モデル事業取組レポート**

事業名 2-(1)

鹿沼市における市民の地球温暖化防止活動

団体名

エコネットかぬま

代表者肩書・氏名

代表 大出ヨシ

●事業の目的、目指す将来像など

2004年度からのエコネットかぬまの活動を発展させ、鹿沼市民の地球温暖化防止、循環型社会づくりの意識向上をはかる。

●今年度の事業の取組実績

1. エコリフォームのつどい
3月30日(水) 17名参加
2. フードロス対策いちご狩り
5月29日(日)村井町黒田いちご園
参加者 28家族 大人45名、こども45名、エコネットかぬま会員など
総計103名参加
3. 地球温暖化防止ゴミ分別学習会
6月25日(土)北押原コミュニティセンター 参加者 38名
4. エコ料理講座(小麦まんじゅう作り)
9月26日(月) 北押原コミュニティセンター 23名参加
5. エコ視察研修 11月29日(火)
25名参加
6. 長寿100年食生活講習会
1月24日(火)菊沢コミュニティセンター 参加者 31名
7. エコしもつかれ講座
2月15日(水)菊沢コミュニティセンター
参加 25名

●今後に向けての展望、意気込み

フードロス対策いちご狩りは好評でした。いちごを廃棄せず、食用に出来、農家の方の応援にもなりました。次年度も継続発展させます。

ゴミ問題は、鹿沼市、鹿沼市民の一大関心事です。行政だけでは解決が難しい問題です。市民の知恵でゴミを減らし地球環境を守る活動を続けます。

地域の伝統的な郷土料理をつくり、地産地消の良さを広めていきます。

高齢者の健康長寿に貢献する行事を開催していきます。

会員のエコ生活情報をニュースで発信していきます。



ゴミ分別学習会



小麦まんじゅう作り

**令和4年度
市民協働デジタル事業取組レポート**

事業名 2-(2)

かぬまお茶の間うたごえ喫茶DVD作成・鹿沼市図書館蔵書化、鹿沼市高齢福祉課様を通じPR

団体名

かぬまお茶の間うたごえ喫茶DVD作成委員会

代表者肩書・氏名

代表 石原満男

●事業の目的、目指す将来像など

1. 新型コロナウイルス感染防止分散方式DVD(自宅、高齢者施設)でのうたごえ喫茶実現
2. 高齢者様の福祉増進
3. うたごえ(音楽療法)による健康増進
4. 高齢者医療費の削減(国民健康保険財政への貢献)
5. 鹿沼市の音楽文化発展への寄与
6. 市民・市民団体・企業・鹿沼市(行政)の協働によるまちづくり推進
7. かぬま・お茶の間うたごえ喫茶20回分のDVD作成、図書館蔵書化

●今年度の事業の取組実績

- ◇第15回お茶の間うたごえ喫茶
4月24日リハ、4月28日収録支援
- ◇鹿沼ケーブルテレビ打ち合わせ
5月16日
20枚分見積もり、著作権確認等
- ◇第16回お茶の間うたごえ喫茶
6月22日リハ、6月28日収録支援
- ◇図書館打ち合わせ 8月3日
かぬまお茶の間うたごえ喫茶DVD蔵書化了承
- ◇第17回お茶の間うたごえ喫茶
10月11日リハ、10月18日収録支援
- ◇第18回お茶の間うたごえ喫茶
11月20日収録支援
- ◇第19回お茶の間うたごえ喫茶
12月18日収録支援
- ◇第20回お茶の間うたごえ喫茶
2月19日収録支援
- ◇2月20日～
プログラム集作成

●今後に向けての展望、意気込み

第20回(2月19日収録DVD作成)で全20巻製作終了。
2023年2月中に全20巻とプログラム完成。
鹿沼市高齢福祉課を通じ、7カ所のほっとホーム、94カ所のほっとサロンにDVD図書館蔵書をPRする。
四季折々に合わせたうたごえを楽しんでもらう。
うたごえによる脳の活性化をはかり、また誤嚥性肺炎を防止し、元気な長寿の鹿沼市を目指します。



DVD



収録風景

令和4年度 市民協働デジタル事業取組レポート

事業名 2-(3)

鹿沼を巡る絵本プロジェクト

団体名

かぬま便

代表者肩書・氏名

代表 千徳 渉真

●事業の目的、目指す将来像など

現在鹿沼市では人口の減少が進行してしまっています。多くある人口減少の原因の中で、私たちは市外への人口流出に着目しました。鹿沼市の魅力に気づけていない若者が多いことが課題だと考え、その解決のため若者目線での鹿沼市の魅力の発信が必要だと感じ、この事業を始めました。

誰もが気軽に楽しみ学ぶことのできる絵本の中で、鹿沼市が全国に誇る名産を紹介し、これからの鹿沼市を担っていく子どもたちの郷土愛を育むことを目指しました。郷土愛を育むことで、将来的に鹿沼に住み続ける人、鹿沼に戻ってくる人が増えることを期待しています。

●今年度の事業の取組実績

6月から本格的に絵本事業に取り組みました。まずは、メンバー内で絵本の構成を細かく決め、必要になる資料を集めました。前年度に農家さんに取材した資料を元に作成を開始しました。

絵本の内容は、鹿沼の特産品のいちごやニラを使った料理を提供する食堂を作るという夢を持った女の子が食材に出会いながら夢を叶えるという内容です。それと同時にInstagramを活用し事業の周知に取り組みました。具体的にはInstagramにてライブ配信を行い、視聴者に直接事業について知ってもらう機会をつくりました。

現在絵本を小学校に寄贈するために、小学校に出向いてお話をさせていただいています。絵本を制作しようと思ったきっかけや内容、この事業の目的・効果を伝えています。

この事業を通して、多くの子どもたちに鹿沼市の魅力を伝えていきたいです。

●今後に向けての展望、意気込み

今年度の事業は、鹿沼市内の小学校に寄贈するものでした。しかし、絵本は子どもだけでなく全世代が楽しみながら学ぶことのできる媒体です。今後は多くの世代の方に絵本を知っていただけるよう活動を続けていきたいです。

私たちは、Instagramにて鹿沼市のスポットを紹介することで、鹿沼市の魅力の発信を行っています。鹿沼市には多くの魅力的な物や事がたくさんあるにも関わらず、知られていないのが現状だと考えています。私たちのInstagramを通じて多くの人に鹿沼市の魅力を伝え、鹿沼を好きな方を少しでも増やしていきたいです。

かぬま便は現在、鹿沼市在住の大学生4人で活動しています。今後は一緒に活動するメンバーを募集したいと考えています。また、鹿沼市内外の様々な人々と交流し、活動の幅を広げていきたいです。



鹿沼を巡る絵本「さつきちゃんのかぬま食堂」

令和4年度
市民協働モデル事業取組レポート

事業名 2-(4)

千渡地区高架橋下広場づくり
と活用

団体名

千渡地区高架橋下整備委員会

代表者肩書・氏名

代表 大橋 光江

●事業の目的、目指す将来像など

子どもたちの遊び場や高齢者の集いの広場づくりを目的としています。
千渡地区は宅地開発が進み、小学生・中学生の児童生徒が著しく増加していく中、子どもたちの遊べる広場がなく、千渡地区高架橋下を活用できないかと思い、地域住民の協力で高架橋下の整備を行ない、丸2年の歳月をかけて広場として活用できるまでになりました。
そして、安心安全な地域、地域住民が有効活用ができる広場、美しいまちづくりを目指す将来像としています。

●今年度の事業の取組実績

令和4年7月10日～令和5年2月19日の日曜日、午前9時～午後3時(19日間)まで開放し、小学生を中心に延べ人数158名が遊びました。

その間には、側溝の蓋(すのこ)の作成や、雨水が高架橋から落ちてくる水槽の周りに砂や砂利が入り込まないように植物(リュウノヒゲ)を植えました。また、雨どい亀裂防止にエアキャップを巻きました。簡易トイレの設置を行い、手洗い用の流し台やポリタンクに水を入れ、子どもたちが安心して遊べるようにしました。

その他、水資源開発機構様(南摩ダム施工)の協力により、伐採木の木屑チップを現時点で2回搬入していただき、子どもたちが安全に遊べるよう試験的に砂利や砂の上に敷きました。良い状況が分かった時点で多くの木屑を敷き詰めようと思っています。

●今後に向けての展望、意気込み

より多くの子どもたちや地域の方々が集まる場所にするための工夫をしていけたらと思います。

- ①終日開放できる組織づくり。
- ②子ども育成会と協力し夏休みのラジオ体操の開催。
- ③早い段階で幼児でも遊べる砂場作りや手作り丸太シーソー等設置できればと思います。
- ④平日は高齢者を中心に早朝ラジオ体操の開催や井戸端会議ができるように準備していきます。
- ⑤三世代交流の催事等計画を立てて行きたいと思っています。



みんなですのこにお絵描き



みんなで鉄棒の練習



みんなで仲良く大縄跳び

令和4年度
市民協働デジタル事業取組レポート

事業名 2-(5)

朗読劇「cry!cry!!cry!!!犬達の遺言」

団体名

「朗読劇cry!cry!!cry!!!犬達の遺言」公演実行委員会

代表者肩書・氏名

実行委員長 御地合 直美

●事業の目的、目指す将来像など

朗読劇を通して市民が動物愛護や殺処分について身近に感じることで「命の尊さ」や「仲間との協力（信頼）する大切さ」について学ぶこと、また、飼い主の責任感を養い、安易な飼育放棄や動物の殺処分が減少する社会を目指しています。

地道に活動を続けることで、命の尊さや仲間と協力する素晴らしさを伝え、動物も人も大切に
するまちづくりに繋げていきたいです。

●今年度の事業の取組実績

朗読劇cry!cry!!cry!!!犬達の遺言
上演 4回

①令和4年8月21日(日)

ジュニアチーム発表会

会場 NPO法人プロジェクト宙

来場者32名

10月15日(土)に栃木県動物愛護指導センターへ物品寄付(餌・玩具)

②12月19日(日)公演

11:00・17:00 2回公演

会場 カスケードガーデン

来場者のべ17名

③令和5年3月19日(日)

ジュニアチーム発表会

会場 NPO法人プロジェクト宙

④その他 ・令和4年5月25日(日)

11:00・15:00 2回公演

会場 くぐつあとりえ 来場者のべ25名
(前年度コロナ感染拡大防止のため延期になった公演)

・8月23日(火)14:00

会場 北犬飼コミセン

主催 鹿沼教職員協議会 研修会にて
上演予定→ コロナ感染拡大防止のため直前に中止(主催者)

・12月28日(水)14:00

スピンオフ「ケイトのぼうけん」

会場 NPO法人プロジェクト宙

来場者 33名

●今後に向けての展望、意気込み

令和2年に、この朗読劇を上演するための市民劇団を立ち上げました。その後も随時、キャストを募集し、公演を観に来てくださった方がキャストになってくださるなど、現在は小学3年生から60代まで総勢23名のキャストとなり、今年度はジュニアチームが結成されました。その時々でキャストが異なるおもしろさも含め、単なる動物愛護の視点だけでなく、人権や道徳など幅広いテーマで上演を継続していきたいと考えます。そして、現在は鹿沼市内の自主公演の活動ですが、コミセンまつりや市外での公演、学校での上演を(一昨年の南摩中に続き)行っていきたいです。

タイトル名は痛々しい印象があるかもしれませんが観劇後、優しい気持ちになれる朗読劇です。ぜひ、多くの方々に観劇頂けるよう、今後もキャスト増員に努め、稽古に励みます。



栃木県動物愛護センターへ寄付



一般公演の様子



ジュニアチーム発表会